

1: 【The Black Note】第14話 黒い羽根  
2:  
3: ■オープニング  
4:  
5: セレスモノローグ「ブラックノート、黒い背表紙……漆黒の装丁の闇の歴史書。12の精霊核の  
6: 伝説を時の果てまで追いかけた黒髪の歴史家がひっそりとまとめ上げたものだという。ど  
7: こにあるのか永遠の謎とされてきた真相がついに解き明かされて、闇に消された真実の歴  
8: 史があたしたちの目の前に姿を現そうとしていた」  
9:  
10: ■タイトルコール  
11: デュレ「The Black Note 第14話 黒い羽根」  
12:  
13: ■本編  
14: □エルフの森  
15: SE：ひょおおお。  
16: ジーゼ「……森がないてる。——みんな、無事でいるかしら……」  
17:  
18: □地下室で。  
19: レイヴン「貴様の相手は、オレだ！ 迷夢！」  
20: 迷夢「おおっと、レイヴンが怒ってるから、あたしは戻るね」  
21: マリス「どうしてこんなことになったのか、お前たちは判るか？」  
22: デュレ「それは……判りません」  
23: マリス「久須那だ。あいつがわたしを見捨てなければ、こうはならなかった」  
24: デュレ「……きっと、違うと思います……」  
25: シリア「孤独の不安をまぎらわすただけに周囲を巻き込むのはやめる……」  
26: マリス「何——だと？」  
27: シリア「お前は強い。だが、強さにひれ伏し付いてくるものはいても、マリスという人柄に惚れ  
28: 込んで付いてくるものはなかった。大勢に囲まれているようでも、心はずっと、一人のま  
29: ま。お前は——かつての久須那と一緒に……。唯一の違いはお前は己の力に頼み、何もか  
30: もを力で解決し、世界を支配することでその孤独を埋めようとしていることだ」  
31: デュレ「淋しさや、虚しさはそんなことでは決して埋められません……」  
32: マリス「なかなか、最もらしくまとめたものだ——。判った。わたしはわたしの力を世界に知ら  
33: しめたかったのだ。こう言えば、貴様らは満足なんだろう？」  
34: デュレ「そんなことはありません」  
35: マリス「……そうか？ 偽善者め」  
36: デュレ「——偽善者かもしれません……。でも、これだけは言えます。久須那の絵をあなたに渡  
37: すことだけは絶対に出来ません！」  
38: マリス「ふん、それだけ言えればたいしたものだ。——そろそろお別れにしよう。全てを統べし  
39: 光の意志よ、我が意を受けて壁を打ち抜く弾として形をなせっ！ スパークショット！」  
40:  
41: SE：スパークショット！  
42: SE：シールド立ち上がる  
43:  
44: シリア「アイスシールドっ」  
45:  
46: SE：びき。

47:  
48: シリア「ちょっと、危なかったかな？」  
49: デュレ「リボンちゃん……？」  
50: シリア「お前ら、オレが大魔法使いだってことを忘れていただろう、絶対」  
51: セレス「忘れていないよ。絶対」  
52: シリア「ウソつけ。お前はいつだってそう言う」  
53:  
54: SE：剣が刺さる音。  
55:  
56: 迷夢「デュレ。これを使いなさいよ」  
57: デュレ「これは……闇色の剣……」  
58: 迷夢「いやさ、変幻自在の久須那のイグニス弓の真似をしてたら、何か、二本、出来ちゃった  
59: んだよね、それ。消さないでいてあげるから、使って。……まさか、使えないなんて言わ  
60: ないわよねえ？」  
61: レイヴン「よそ見をするなっ！」  
62:  
63: SE：剣がどかん。  
64:  
65: 迷夢「おうっ！ 想像以上に出来るんでしょ、レイヴン？」  
66: レイヴン「それは何だ？ 褒めてるのか、貶してるのか？」  
67: 迷夢「どっちでも」  
68:  
69: SE：迷夢、後ずさる。  
70:  
71: レイヴン「何のつもりだっ！」  
72: 迷夢「さあ？ 何のつもりでしょう？」  
73: レイヴン「くそっ！ 天空に住まう光の意志よ。我が右腕に宿り、全てを滅する破壊のパワーを  
74: 体現せよ。食らえ、光弾！」  
75: 迷夢「思慮が浅いぞ、レイヴンくん」  
76:  
77: SE：魔法炸裂。スプールシールド発動。  
78:  
79: 迷夢「スプールシールド」  
80: レイヴン「全てを統べし光の意志よ、我が意を受けて壁を打ち抜く弾として形をなせっ！ ス  
81: パークショット！」  
82: 迷夢「うわっ！」  
83:  
84: SE：どかん。どかん？  
85:  
86: 迷夢「……あ～あ、ひっちゃかめっちゃか。罰当たりめ」  
87: レイヴン「お前こそ、墓石（はいし）を足蹴にたくせに何を言うか」  
88: 迷夢「そおだっけ。目覚めよ、光の瞳。その美しき光玉の彼方よりあまたの次元を駆け抜ける真  
89: 実の道しるべを我が前に現せ。開け、クラッシュアイズ！」  
90:  
91: SE：クラッシュアイズ発動。  
92:

09.11.06  
TBN14.rtf

93: レイヴン「くっ、ミラーシールド」  
94: 迷夢「ここまでは普通よね。……ミラーシールドっ！」  
95: レイヴン「どこを狙っている、明後日の方向に飛んでいったぞ。……何？」  
96: 迷夢「そう。二枚よ。反射角をちょっぴりいじったのよね」  
97: レイヴン「むっ」  
98:  
99: SE：レイヴン、華麗に避ける。  
100:  
101: 迷夢「あら、レイヴン。あたしさ、もしかしたらキミのこと、見くびってたかもしれないね。  
102: ……なあ～んて、本気にした？ キミのそゆとこがお子ちゃまよね」  
103: レイヴン「バカにするなよ、迷夢。今にお前は後悔する」  
104: 迷夢「しないよ。する訳ないじゃん。この前、キミに負けた時は後悔しきりだったけど、今日は  
105: 違う。だって、あたしがキミに負けることはないんだから」  
106: レイヴン「オレがお前に負けることもあり得ないっ」  
107:  
108: SE：レイヴン飛翔。剣と剣が交差する音。  
109:  
110: 迷夢「あたしさ、キミのこと嫌いじゃないのよ？」  
111: レイヴン「……オレは嫌いだ」  
112: 迷夢「そう？」  
113:  
114: SE：斬りつけられる音。  
115:  
116: レイヴン「ぐあっ。くそっ」  
117: 迷夢「観念なさい、レイヴン。キミは良くやったよ。ただ、ちょっと相手が悪かっただけ」  
118: レイヴン「……くそ。ふざけたお前のどこにそんな力があるんだ。あの時、お前はオレに刃を向  
119: けることすら出来なかったじゃないか」  
120: 迷夢「甘いなあ、レイヴン。……あの時はおチビちゃんが居たじゃない。あの子を守るのにあた  
121: しは身体を張ったのよ。サスケも居たし？ そのおチビちゃんもあんなにでっかい図体に  
122: なって、自分の面倒くらい自分で何とかするでしょ」  
123: レイヴン「オレに負ける要因はないといいたいのか」  
124: 迷夢「そうよ。と言いたいけど、そうじゃあ、ないのよねえ。キミごときに負けてられないの  
125: よ。だってさあ？ 今度の面子で一番強いって、あたしなのよね」  
126: レイヴン「だったら、尚のこと、お前に敗れる訳にはいかんだ」  
127: 迷夢「無理。だって、あたしはかすり傷、なのにキミは瀕死の重傷ではないけど、へ口へロじゃ  
128: ない。もお、マリスのために戦わないって言うなら、そっとしておいてあげる……」  
129: レイヴン「断る」  
130: 迷夢「そお……。じゃあ、最期まで相手をしてあげるわ」  
131:  
132: SE：剣が交差。  
133:  
134: 迷夢「スパークルアロー」  
135: レイヴン「シールドアップ。そんなのは無駄だっ！」  
136: 迷夢「いっけえ！ フレイムショット！」  
137:  
138: SE：シールドが崩壊する音。

09.11.06  
TBN14.rtf

139:  
140: 迷夢「よしっ！」  
141:  
142: SE：剣が向こうから飛んでくる。  
143:  
144: 迷夢「っ！」  
145: レイヴン「ダメか——」  
146: 迷夢「——なかなか、やるんでしょ、レイヴン。けど、もう、終わりにしよう」  
147: レイヴン「……」  
148:  
149: SE：剣の音。ぐさ？  
150:  
151: 迷夢「ばあいばあい、レイヴン」  
152: レイヴン「……迷夢……お前など、マリスに……殺されてしまえ……」  
153: 迷夢「……キミはついていくべき人を誤ったんだよ……。ううん、キミは……マリスを間違った  
154: 道から取り戻せる唯一の存在だったんだよ。マリスの孤独を埋められるのはキミだけだっ  
155: たのに……」  
156:  
157:  
158: □場面転換。と言うか、迷夢がデュレに剣を渡したところに戻って。  
159:  
160: デュレ「迷夢の剣。これを使えて……」  
161: セレス「黒い炎がわき上がってるのに……熱くない……」  
162: マリス「貴様にそれが使いこなせるとは思えんな」  
163: セレス「そ、そんなことないっ！ お、重い……。——どうだっ！」  
164: マリス「——バカバカしい。構えるのがやっつとで、何をする？」  
165: セレス「バ、バカにするなっ！」  
166: マリス「——自信があるなら、かかって来い」  
167: セレス「てい！」  
168:  
169: SE：サーベルがはじき飛ばされる。  
170: SE：キャンパスが破れる音。  
171:  
172: セレス「いったあ……」  
173: デュレ「絵、絵に剣が……」  
174: セレス「え、そんな、ウソ」  
175: マリス「……借しいな、もう少しで切り裂く手間が省けたのに」  
176: デュレ「——そんな、こんなことって」  
177: シリア「……だから、言っただろ。未来は万人に開かれている。——オレたちにとって時の流れ  
178: とは一定不変。だが、時の流れとは本来そう言うものではない。……過去は未来であり、  
179: 未来は過去でもある。現在とは過去の積み重ねにより存在し、未来を包括する。何故なら、  
180: 時は“流れ”ではない。流れるものではないからだ」  
181: マリス「それは……クロニアスにとってのことだろ？ わたしたちには流れ去るだけだ」  
182: シリア「クロニアスか……。双子のクロニアス。おまえがクロニアスを知っているとはな」  
183: マリス「……純白の年代記……、神々の日記帳……。この謎を追うものは最後に必ずクロニアス  
184: に辿り着く。……それは知っているさ」

185: シリア「なるほど」  
186: セレス「……クロニアスって何？」  
187: デュレ「わたしも詳しいことは知りません。が、ただ、時の精霊で双子らしいってことくらいは  
188: 知っています。……でも、セレス、仮にもあなた、学園の次席卒業でしたよね？」  
189: セレス「うぐ、今、そんなこと突っ込んでる場合じゃないと思うんだけど……」  
190: デュレ「いいんです！ セレスをとっちめられるなら」  
191: セレス「いや、それはよくないぞ」  
192: シリア「何をやってるんだ、お前は。時間が……あ？ まずい、今、何時だ。サスケ、時計塔  
193: を見てこい。急げ、もさくさしていたら時機を逸する。そうなれば、何もかもが水の泡だ。  
194: サスケっ、聞いているのか」  
195: サスケ「聞こえているよ。……全く、狼使いが荒いぜ、親父」  
196: シリア「文句を言うな。自在に実体化できて、壁を抜かれるのはお前しか居ないだろ」  
197: サスケ「壁抜けの必要もないと訂正しておこう」  
198: シリア「全く、口の減らない奴だ。……あれでオレのシルエットスキルだから信じられん……」  
199: サスケ「信じられなくてもそうなんだから仕方がないだろ？」  
200: シリア「ま、まだ、いたのか、お前！」  
201: サスケ「居たら悪いのかい、親父殿」  
202: シリア「オレって内面にあんなのを抱えてるのな」  
203:  
204: SE：シリア、うるうる  
205: SE：サスケの近づく足音。  
206:  
207: サスケ「四時三十五分」  
208: シリア「もう、そんな時間なのか。いいか、よく聞け……」  
209: デュレ「待ってください。久須那さんの絵をどこか他のところへ」  
210: セレス「え？」  
211: マリス「させるかっ！」  
212: デュレ「我が名はデュム・レ・ドゥーア、闇の力を操るものなり・闇は邪にあらず、追憶の片鱗  
213: に住まう孤独の想い。善良なる闇の精霊、シルトよ。我が呼び声に応え、空間を歪め、飛  
214: 翔する力を分け与えたまえ——。フォワードスベルっ！」  
215: マリス「イリミネイトトランザクションっ！」  
216: デュレ「しまっ——！」  
217:  
218: SE：中途半端にフォワードスベルが発動。（絵が行方不明に  
219:  
220: セレス「ど、どこに行ったの？」  
221: デュレ「判りません……。完全に消滅したか、異空間に囚われたのかも……」  
222: マリス「貴様らの大切な絵はどこかに行ってしまったな……。あの絵がなければ、貴様らの存在  
223: 価値もなくなるわけだが……」  
224:  
225: サム「まずいことになったな、久須那」  
226: 久須那「そうだな」  
227: サム「……？ 絵がなくなっちゃあよ、てめえは存在できねえんじゃねえのか？」  
228: 久須那「うん？ 一日、二日くらいなら魔力の補充がなくても何とかなるぞ」  
229: サム「いや、てめえ。その後はどうするつもりなんだ？」  
230: 久須那「別にどうもしない」

231: サム「どうもしないって……」  
232: 久須那「だって、どうもしないだろ？ わたしが消えたところで、オリジナルが死ぬ訳でもなし。  
233: それにわたしがここにいると言うことは絵は消滅してなくなったわけではないだろう？」  
234: サム「そりゃあ、そうだけだよ」  
235: 久須那「……お前が淋しいとはっきり言えばいいんだ」  
236: サム「うがっ、な。……。負けたよ。そうさ。てめえがいなくなると俺は淋しいんだよ！ シ  
237: ルエットスキルとはいえ、てめえは久須那だからな。その……放したく……ねえ」  
238: 久須那「初めて、言ってくれたな。——ありがとう……」  
239:  
240: マリス「さあ、どうする？」  
241: デュレ「リ、リボンちゃん」  
242: シリア「……シメオン時計塔に行け……。お前たちはとにかく元の時代に帰れっ！ 帰らなけれ  
243: ば、何も始まらないっ！」  
244: セレス「……それは……どゆこと……？ さっきは父さんに」（デュレに遮られる  
245: デュレ「どういうことですかっ！ リボンちゃん」  
246: シリア「どういうことなのかはいけばわかる。だから、さっさと行くん」  
247: デュレ「けど、絵が、絵が……」  
248: シリア「——大丈夫だ。サスケと久須那のシルエットスキルが居残ってるだろ？ 絵は近くにあ  
249: る。少なくとも、なくなったワケじゃないさ」  
250: デュレ「……判りました。わたしたちは元の時代に帰ります」  
251: セレス「ちょっと、ちょっと。マリスはどうするのよ。ピンピンしてるんだけど、いいのあれ？」  
252: デュレ「よくはありません。けど、今は引くべきだとリボンちゃんが言っています」  
253: セレス「……悔しい。——こんな外道に何も出来ないなんて、悔しすぎる……っ！」  
254: デュレ「セレス、余計なことを言わないで、早く、ここから出ましょう」  
255: マリス「——逃げられるやつは羨ましい」  
256: セレス「何だって？」  
257: デュレ「挑発に乗らないでっ！」  
258: セレス「うるさいっ！ キミは黙ってる！」  
259: デュレ「あ……」  
260: シリア「やめろ、セレス！ 死ぬぞっ！」  
261:  
262: SE：セレス、マリスに突っかかる。  
263: SE：マリス、セレスのみぞおちにけりを入れて、さらに攻撃。  
264:  
265: セレス「あぐら！」  
266:  
267: SE：デュレ、突撃。  
268:  
269: デュレ「やああああ！」  
270: マリス「何だ、貴様あ！」  
271: デュレ「はあ、はあ——。セレスをわたしから奪わないでください」  
272:  
273: SE：デュレ、倒れたセレスを腕を引っ張って助け起こす。  
274:  
275: セレス「い、いたたあ。腕が抜けるっ！ デュレ、無理だっ」  
276: マリス「帰すものかあ！ 光の眷族、天使・マリスの名に於いて全能なる光の支配者、ウィル・

09.11.06  
TBN14.rtf

277: オ・ザ・ウィスプの戦いへの妄執を召喚せり。虹色に彩られささやかなる煌めきを宿す光  
278: の鎌、我の身体を長弓となし。光の矢として威力を示せ！ 出でよ、スパークルアロー  
279: っ！」  
280:  
281: SE：スパークルアロー+マジックシールド  
282:  
283: デュレ「闇の魔術師・デュレの名に於いて、護符の深淵に封じし魔力を解放する。キャリアアウ  
284: ト」  
285: マリス「小癪な」  
286: シリア「お前の相手はオレだぜ、マリス」  
287: マリス「貴様に用事はない」  
288: シリア「逃げるのか、マリス」  
289: マリス「貴様の相手など無意味だ。あいつらを始末したら、わたしの勝ちだっ！」  
290: シリア「逃がさないぞ、マリス」  
291:  
292: SE：マリス、飛んでいく。  
293:  
294: シリア「くそっ！ 結局はマリスの方が一枚上手なのか」  
295: シリア（……どうやって、あいつを止める……？）  
296: シリア「迷夢、どこにいる。迷夢、迷夢！」  
297:  
298: SE：うるうる  
299:  
300: シリア「迷夢う、何してる、手伝え。マリスが！」  
301: 迷夢「——感傷にふけてる時間もないワケか……。ま、そうなんだけど……」  
302: シリア「レイヴンを吊ってやりたいなら後にしろ……。パッシュのこともあるしな……」  
303: 迷夢「そうだね……。パッシュのこともあったんだ……。——さて、あたしもそろそろ時間だな。  
304: マーカーに灯を灯さないと間に合わない……かな？ お外は一体どうなってるだろうねえ。  
305: 吹きすさぶ嵐、轟く雷鳴。う～ん、何かいいかも。エキゾチック。ロマンチック？」  
306: シリア「だから、お前は何をやってるんだ。一時でいいから、マリスを止めるんだ」  
307: 迷夢「せっかちなね。精霊王ともあろうお方が」  
308: シリア「サム、久須那っ！ お前らは今のうちに準備しておけ。何を準備するかは判るな」  
309: サム「ああ、判るから大声出すんじゃねえ。てめえの声は頭に響くんだよ」  
310: 迷夢「ねえ、久須那。これちょっと、預かっておいてよ」  
311:  
312: SE：がさごそ  
313:  
314: 迷夢「ロミイって呼んであげてね♪」  
315: 久須那「ロミイ……？」  
316: 迷夢「そう、万里眼のロミイちゃん」  
317: 久須那「あ、ちょっと、こんなものを渡されても困る！」  
318: ロミイ「……」  
319:  
320: SE：迷夢とシリア、走る。  
321:  
322: シリア「いいか、迷夢。タイムリミットは明日の一時だ。それまでに何としても、デュレとセレ

09.11.06  
TBN14.rtf

323: スを送り返す。それに、お前の魔法もだ。それまでに完遂しろ……」  
324: 迷夢「タイムリミットって、何のタイムリミットよ？ あたしの魔法にタイムリミットなんてないし……」  
325:  
326: シリア「……足りないのは……オレの時間さ。——親父も昔、同じことを思ったんだろうな……」  
327: 迷夢「——死ぬってこと……？」  
328: シリア「さあ、どうだろうな。1516年まで無事に生き長らえたらジーゼに聞いてみたらいい……」  
329:  
330:  
331: □場面転換。  
332: ・どこかの家の屋根の上。  
333: ・白い衣と、お揃いのトパーズ色のマントをまとった年少の男女がいる。  
334:  
335: ラール「どおする、ルーン。予想以上に進行してるようじゃない？ このまま放置したら、元に  
336: 戻せなくなることは請け合いだね。けど、ぼくはあのリボンちゃんは好きだな。『時は万人に開かれたものだから』絶えず未来は確定しないだけ？」  
337:  
338: ルーン「ラールう？ ……だいたい、あんたはお喋りが過ぎるのよ。少し黙ってなさい」  
339: ラール「そお？ けどさ。あの黒い翼の天使に大暴れされて、封印の絵には傷が入っちゃったよね？ ぼくらの守るべきは時の精霊核に封じられし記憶の年代記じゃなかったっけ？」  
340:  
341: ルーン「あんたは首を刈られたいの？ わたしがいいって言ってるからいいのよ」  
342: ラール「ぼくは良くないと思うけど。毎回毎回、ちょっとずつ違うけど、今度ののは危険じゃない？」  
343:  
344: ルーン「そ、そんなことないわよ。わたしは必要以上に触りたくないの。判るでしょ、いくら、  
345: 鈍感なあんただって。時間とはとてもデリケートなものなの。今、触ったら、壊しちゃう」  
346: ラール「けど、今が必要な時じゃないかな、ルーン」  
347: ルーン「もっと慎重に！ ギリギリまで見定めてから、わたしが決定します」  
348: ラール「はいはい……。首を刈られちゃ、たまらないもんな」（ぼそぼそ  
349: ルーン「何か言った？ ラール」  
350:  
351: SE：不機嫌に足をパンとならす。  
352:  
353: ラール「何も言っていないよ」  
354: ルーン「ならいいわ」  
355:  
356: □場面転換  
357: ・デュレセレが地下墓地から外に出てくる。  
358: ・禍々しいな空気が周りを飲み込んでいる。  
359:  
360: デュレ「さっきまでと雰囲気はかなり変わりましたね……。凄く嫌な感じに……」  
361: セレス「太陽……どこに行っちゃったのかな？」  
362: デュレ「——マリスが何かを仕掛けたのかしら……？」  
363: セレス「マリスじゃなくて。あの例の、ホラ、召喚じゃなくて……迷夢の」  
364: デュレ「ええ、わたしたちの世界と天使の住む世界の“境界面の補強”ですね。でも、その魔法とはちょっと違うような気がします」  
365:  
366: セレス「と言うと？」  
367: デュレ「禍々しいような。そうでないような微妙なところだけど、本格的な邪なる闇魔法の発動  
368: 準備中のような気がします。でも、天使には本式の闇魔法は使えないんです。闇は光の天

369: 使の反対属性に近いですから、波長が合わないんです」  
370: セレス「じゃ、何よ、この暗い空は？」  
371: デュレ「気象制御魔法の一つ……。きっと、マリスが言っていたトリリアンを使った何か。いわ  
372: ゆる集団魔法だと思います。けど、これだと、大嵐が来てそれで終わりになってしまうと  
373: 思うけど……。どうなのでしょうね？」  
374: セレス「——そんなこと、あたしに訊くな」  
375: デュレ「別にあなたになんか、訊いていません！ ただのあやです」  
376: セレス「あら、そお。——けど、時計塔に行って帰れと言われても……？」  
377:  
378: SE：アルタ現れる。  
379:  
380: アルタ「……俺についてこい……」  
381: セレス「父さん？ 何で、こんなところに？」  
382: アルタ「四の五の言うな。……もうすぐ、マリスが追ってくる。こんなところでモタモタしてい  
383: たら斬り殺されるぞ。あの女に躊躇う理由はなくなったんだ。——マリスがああやって、  
384: お前たちに手をかけるのを先延ばしにしてきたのは久須那に嫌われなくなかったからだぞ  
385: ……」  
386: セレス「そおなの……？」  
387: アルタ「それ以外に理由があると思うか？」  
388: デュレ「……しかし、わたしはあなたを信用できません。色々ありすぎて、色々判らなすぎて、  
389: あなたは信用に足りません。あなたの言葉に従う義理はありませんっ！」  
390: セレス「……いいから、デュレ」  
391: デュレ「でも……。いくら、セレスのお父さんだからって……」  
392: セレス「たまにはおねえさまの言うことを聞くもんだ」  
393: デュレ「はい……」  
394:  
395: SE：雨が降り始める。  
396: SE：足音  
397:  
398: セレス「デュレ……。雨だよ」  
399: デュレ「言われなくても判ります」  
400: デュレ（——もうすぐなんですね……）  
401: セレス「デュレ？ 雨水飲んで何か楽しい？」  
402: デュレ「——何でもありません。ただ、ちょっと考え事をしていただけです」  
403: アルタ「後はこの通りを真っ直ぐ行けば、判る。俺はこの辺でおいとまする」  
404: セレス「どうして、父さん？ 最後まで一緒に……」  
405: アルタ「この時代はクロニアスに目をつけられている……。彼らに言わせれば、ここは大きな分  
406: 岐点を抱えているようだ。だから、普通なら見過ごしてしまうような揺らぎで済むはずの  
407: ことも取り返しのつかない常軌を逸する事象として現れてしまうこともある……とね」  
408: デュレ「アルタさん……。もしかして、あなたは……？」  
409: アルタ「会ったと言いたいところだが、背後から大鎌を首筋に当てられて警告も受けた……だけ  
410: だ。見て歩くのはいいが、触るな……と言われた。だから、俺はもう帰るよ。一足先に  
411: ……向こうで。……全部、終わったら、会おう。いいな、セレス」  
412:  
413: SE：アルタの去る足音。  
414:

415: セレス「父さん……」  
416: デュレ「このまま、行かせてしまってもいいんですか……？」  
417: セレス「……だって、しゃあないじゃん……。あれがあたしの父さんだから——」  
418: デュレ「あれがセレスのお父さん。……それはまあ、それとして随分、肌寒くなりましたね……」  
419:  
420: SE：雷鳴がとどろく。雨の音も一緒。  
421:  
422: デュレ「……嵐が近付いていますし、多分、普通の雷だと思うのですが、……正直、よく判らな  
423: いです。色々な魔法使いの……“色”が充滿して……。悪意が……」  
424: セレス「そっか、じゃあ、きっと、もうすぐなんだね」  
425: デュレ「セレス、時計塔は今、何時を指していますか？」  
426: セレス「さあ？ 四時五十分くらいじゃない？ ここからじゃ、よく見えないよ」  
427: デュレ「……早すぎますね……。時計塔を指さして、わたしが言ったという十三と言う数字が出  
428: てこない」  
429: セレス「でも、あれ、別に予言って事じゃないでしょ？」  
430: デュレ「いえ、他ならぬわたしが残したメッセージならその片鱗が必ず近くにあるはずですよ」  
431: セレス「あーそう。別にいいけど。で、デュレ。時計塔に何かあるって？」  
432: デュレ「残念ですけど、知りません」  
433: セレス「知りませんってどういう事なのよ！ リボンちゃんはただ行けという。だから、あたし  
434: はてっきりキミが全部知ってるものだとかばかり思っていた。判らない、判らないって言っ  
435: てたけどさ、リボンちゃんにきっちりと教えてもらっているものだとかばかり思っていた。  
436: ……ウソつき」  
437: デュレ「何ですって？ そこまで言うんだったら、セレスが自分で何とかしなさい。わたしはも  
438: う、知りませんっ」  
439: セレス「あ、あ。ごめん。だから、その、……見捨てないで？」  
440: デュレ「いっつも、そうなんだから、嫌になります」  
441: セレス「いや、そんな冷たいこと言わないで、ね、ね？」  
442: デュレ「あなたがそんなだから、言いたくなるんです。何も言われたくないなら、少しは大人し  
443: くしていなさい！」  
444: セレス「は〜」（は〜いと言おうとして、雷に驚く  
445:  
446: SE：さらに雷鳴がとどろく。雨の音も一緒。  
447:  
448: セレス「デュ、デュレえ？ 急ごう？ 風邪引いちゃう」  
449:  
450: SE：走り出す二人。  
451:  
452: セレス「シメオン時計塔……か」  
453: デュレ「1285年に建築されたリテールで初めての時計塔です。……あれだけ大きなガラスの文  
454: 字盤を造るのは至難の業で、機械式の時計が発明されたのもこの機械時計が出来るホンの  
455: 少し前のことだと言います。正確な“時”と言う概念が民衆に行き渡ったのは最近のこと  
456: ですね、きっと」  
457: セレス「デュレ、物思いにふけるのはあと、あと」  
458: デュレ「そうでしたね。まずは時計塔の機械室まで上ってみましょう」  
459:  
460: ・時計塔の中へ。

09.11.06  
TBN14.rtf

461: SE：階段を上る。ひたすら上る。  
462:  
463: セレス「うぁ～ん。この階段って一体、何段あるのよぉ」  
464: デュレ「ぼやかないでください。セレスのぼやきはやる気を根こそぎにするから。黙って、走っ  
465: て」  
466: セレス「へ～い……」  
467:  
468: ・時計塔の機械室。ガラスの文字盤で外が見える。  
469: SE：色んな機械が動く音。  
470: SE：マリスが空を飛んでいる。  
471:  
472: セレス「ガラスの文字盤……」  
473: デュレ「セレス！ 外！」  
474: セレス「え？」  
475: マリス「貴様らは生きて帰さんぞ。ここで大人しく死んでおけ」  
476: セレス「——リボンちゃんは負けちゃったの？ そんなはずないよね？」  
477:  
478: SE：ガラスが割れる音。  
479:  
480: マリス「覚悟しろ、小娘ども。わたしを怒らせたことを後悔させる」  
481: デュレ「マリス……っ！」  
482: デュレ（……どうしたら、マリスを返けられる……？）  
483: セレス「あたしに任せて」  
484: デュレ「セレス……、何をやる気ですか？」  
485:  
486: SE：何者かが外から入り込んでくる音。  
487:  
488: 迷夢「マリス、……あなたの相手は子猫ちゃんたちじゃない。あたしよ」  
489: マリス「迷夢？ レイヴンはどうした？」  
490: 迷夢「レイヴンなんかにはやられる訳がないでしょ。あたしは策士・迷夢よ」  
491: マリス「そうか……、レイヴンは死んだか。……今まで謀っていた訳か。優柔不断で弱いふりを  
492: して、真の実力はいざという時まで決して見せない。迷夢には……“能ある鷹”というイ  
493: メージは少しもなかったんだが……。まあ、いいさ。ガキどものお守りをする前に貴様と  
494: 決着をつけてやる」  
495: 迷夢「望むところ……とやりたいけど、あたしはヤなのよね」  
496: マリス「何だ？ 自分から誘っておいてもう、怖じ気づいたのか？」  
497: 迷夢「そおじゃないのよ。正直、面倒くさいのよねえ。何だかんだ言っても、マリスって強いし  
498: さぁあ？ キミを引き留めるだけの戦いをするったら、大変なのよ。判る？ ねえ、取引  
499: しない？ 地獄の沙汰も何とやらって言うじゃない？ ね？ これで——」  
500: マリス「策士・迷夢の本領発揮だな——。だが、そんな見え透いた手には乗らん！」  
501: 迷夢「そお？ キミはすでにあたしの術中にはまっているのだっ！」  
502:  
503:  
504: □リボンちゃん、がんばって走ってる。  
505: シリア（急げ、急げ。……くそっ、何でオレは空を飛べないんだっ）  
506: シリア「時計塔まで迷夢に送ってもらえば良かったのか……？」

09.11.06  
TBN14.rtf

507:  
508: □戻って、時計塔。  
509: マリス「わたしに手向かうのは貴様は命は惜しくないのだと理解して構わないのかな？」  
510: 迷夢「う～ん、そんなに悲愴になるつもりはないんだけどなあ」  
511: マリス「迷夢にそのつもりはなくても、わたしにはある。貴様に散々かき回されてきたからな。  
512: いいかげん、うんざりなんだ。そろそろ、片づいてもらわないと、わたしの気が済まない」  
513: 迷夢「あっ！ その気持ちは判るような気がする」  
514: マリス「判ってもらふ必要はない」  
515: 迷夢「なぁんだ、折角、理解を示してあげたのに、いらないんだ？」  
516: マリス「……っ！ 貴様の人を小馬鹿にしたような態度が気に入らん。いいか、わたしの二つ名  
517: を忘れるな。“災厄を呼ぶ天使”生きている限り、貴様らに安寧の時は来ない」  
518: 迷夢「そお、じゃあ、殺せばいいんだ」  
519: マリス「殺せるものなら、殺してみたらいい」  
520: 迷夢「じゃあ、遠慮なくやっちゃお～かなあ～。それともさぁあ？ あたしたちのためにどこか  
521: に消え失せて、二度と姿を現さないでもらえたら、とおっても感謝しちゃうんだけど…  
522: …？」  
523: マリス「……」  
524: 迷夢「はは……。そんなにイヤ？ あたしは饒舌（じょうぜつ）絶好調なんだけど……」  
525: マリス「わたしは貴様のお喋りは聞きたくない。小娘どもに用がある。貴様は邪魔だ」  
526: 迷夢「じゃ、切り伏せたら良かったじゃない。以前のキミなら、絶対にそうしたはずなのに。怖  
527: い？ 天使としてただ一人、リテールで生きていくのが怖い？」  
528:  
529: SE：突如、交差する剣の音。  
530:  
531: 迷夢「何だ、やれば出来るんでしょ？」  
532: マリス「バカにするな」  
533: 迷夢「——マリスちゃん。そお～んなに顔を近づけたらちゅーしちゃうぞよ」  
534: マリス「ふざけるなっ！」  
535: 迷夢「あ～ら、心外ねえ。あたしは至って真面目なのよ。これまでにないくらい」  
536: マリス「だとしても、レイヴンには見劣りする」  
537: 迷夢「あらあ、ご・ち・そ・うさま♪ けど、あたしは真面目一直線のレイヴンとは違うのよ。  
538: レイヴンって、キミー筋でそう言う点では可愛かったけど、所詮それだけよ。あいつは二  
539: 流。かつて、協会の覇権を握りかけたジングリッドにも劣る」  
540: マリス「ほざけ」  
541: 迷夢「このあたしをみくびってもらっちゃ困るのよ。どうせ、あたしのことは掴み所がなくて、  
542: ふわふわしてるような訳の判らない、テキトーに扱っておけば適当に満足してる変な奴。  
543: とでも思っていたんでしょ？ ところが、その当ては外れて、あたしは妙に強いとなっ  
544: た」  
545:  
546: SE：やっぱり、剣の擦れ合う音。  
547:  
548: 迷夢「さあ、どうする？」  
549: マリス「口数が多い下世話なお前に後れを取るわたしではないぞ」  
550: 迷夢「いいえ、不測の事態にキミは滅法弱いよ。それくらいのこと、あたしが知らないとしても  
551: 思った？」  
552: マリス「……！」

09.11.06  
TBN14.rtf

553: 迷夢「凶星♪」  
554: マリス「だから、どうした！ わたしを今まで貴様が相手にしてきた雑魚どもと一緒にするな」  
555: 迷夢「そおお？ あたしはどっちも変わらないと思うけどなあ。その高慢ちきな態度とか」  
556: マリス「——高慢ちきか。それでも、迷夢ほどではないだろう？」  
557: 迷夢「そおかしら？」  
558:  
559: SE：雷鳴がとどろく。  
560: SE：迷夢とマリスの戦闘。  
561:  
562: デュレ（——これでは何も出来ない……）  
563: セレス「凄い……。天使同士の空中戦なんて初めて見た」  
564: デュレ「セ、セレス。悠長に構えてる場合じゃありません」  
565: セレス「だって、あんな立体的に戦うなんて簡単じゃないもん」  
566: デュレ「そんなのどうでもいいから」  
567:  
568: SE：デュレがセレスの袖を引っ張る音。  
569: SE：カチリ……。鐘が鳴る。  
570:  
571: セレス「うわっ！ これはたまんない」  
572: シリア「デュレ、セレス、居るか？ 居るなら、返事してくれ」  
573:  
574: SE：シリアくん登場。  
575:  
576: デュレ「リボンちゃん？」  
577: シリア「良かった、まだ、居たな……。デュレ、セレス。そこの戸から奥に行け。——お前たち  
578: に見せたいものがある」  
579: セレス「今更、見せたいものだなんて、一体何さ？」  
580: シリア「見たら、判る。くたくだ文句をたれていないで、さっさと行け」  
581: シリア（セレスは……見たくなかったかもしれないが……。そう言う訳にもな……バッシュ）  
582:  
583: SE：足音、そして立ち尽くす。  
584:  
585: セレス「……母……さん……」  
586: デュレ「バッシュ……」（セレスとデュレのセリフは重ねて  
587:  
588:  
589: □地下墓地大回廊で。久須那とサム。  
590:  
591: 久須那「——サム、リボンちゃんは勝てると思うか？」  
592: サム「さあてねえ。そればかりは神のみぞ知る……かな。けど、あいつあ、負ける気はこれっ  
593: ぽっちもないようだぜ。負けるつもりは……だ」  
594: 久須那「判ってる。だから、わたしは訊きたいんだ」  
595: サム「どうしても、知りたいと思うならそいつに訊いてみたらいい……」  
596: 久須那「迷夢に渡されたが、これは……何なんだ？」  
597: サム「知らねえか。未来を見透かす力を持っためんたま、通称・万里眼。一応、アイテムらしい  
598: んだが、魔法生物としての挙動を示して、魔力をえさに活動してる。制作者、制作年代は

09.11.06  
TBN14.rtf

599: 共に不明。——制作者はクロニアスだって言うやつもいるけどな。ま、エラそうなことを  
600: いても、オレも本物をみたのは初めてだ」  
601: 久須那「時の秩序を保つと言われるあの“双子のクロニアス”か。それが何故？」  
602: サム「学説さ。ただのね。退屈しのぎのためにばらまくのさ、カオスを。ま、俺はそもそもクロ  
603: ニアスなんて精霊はいないと思うけどねえ。けど、万里眼はあるからな、訊いてみ？」  
604: 久須那「……ロミィ、お前はどんな未来を知っているんだ？」  
605: ロミィ「……」